



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充滿 ・ 献身 ・ 奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558
事務局メール・TENMONKYOUKAI70@outlook.jp TEL・03-3385-7491 HP <http://ashram.jp/>

主イエスを見つめながら

単立 函館栄光キリスト教会

牧師 佐々木雄次

「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもちとわなないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座

の右にお座りになったのです。」(新共同訳聖書 ヘブライ人への手紙 12 章 2 節)

この手紙の受信人であるヘブライ人たちは、信仰生活を続けることに恐れと不安を感じていました。迫害が続く中、集会から脱落する者が続出し、自分たちを指導してくれた指導者たちも殉教したか、亡くなっていましたので、残された少数の者たちだけでは信仰生活を続けていけないのではないか、そう思われ、恐れおののいていたのです。

このような仲間、手紙の著者は、11 章では、アブラハムやモーセを始め、多くの旧約の信仰者たちが迫害の中、信仰を抱いて生き、死んでいったことを述べ、13 章では「あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出さない。彼らの生涯の終わりをしっかり見て、その信仰を見倣いなさい」と述べ、旧約と新約の信仰者の生涯に思いを向け、耐え忍ぶよう奨めますが、12 章では「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら (走り抜こう)」と言いました。「あなたがたには主イエス・キリストが共におられます。主イエスを見つめて、信仰の生活を走り抜きましょう」との励ましの言葉です。

不安を感じる時、信仰の先輩たちがどのように

生きたかを思い出し、励まされ、その信仰に倣っていく。これはとても大切なことです。私たちにも、そのような先輩がいるのではないのでしょうか。

信仰生活は主イエス・キリストなしには成り立ちません。「すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか」(12:1)と言われていますが、自分の努力で、絡みつく「罪」や「重荷」をかなぐり捨てることはできません。つまり、著者が「かなぐり捨てなさい」と言ったのは、「自分の手に負えない一切の罪や重荷をことごとく主イエスにお委ねしなさい」と言い換えることができるし、「信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら」とは、「主を見つめて委ねよ」ということだと思えます。十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになった主イエスは「重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい」(マタイ 11:28)と言われ、「自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(マタイ 16:24)と言われます。

この十字架の主イエスは「信仰の創始者また完成者」です。主が私たちの信仰を始められ、完成して下さいます。すべてのことを主に委ね、主を見つめながら、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜きましょう。大事なことは一番になることではありません。主イエスを見つめながら主と共に完走することです。

アシュラム連盟のホームページの QRコードは右記の通りです。



霊想 平和を実現する人々は幸い

日本基督教団 東久留米キリスト教会
牧師 石田真一郎



霊想を書かせていただく
光栄を、感謝申し上げます。
私も受洗した 30 数年前に、
仙台榎本アシュラム、京浜ア
シュラムに参加したことを
感謝致します。

イエス様は私たちに「平和
を実現する人々は幸いである。その人たちは神の
子と呼ばれる」(マタイ 5 章 9 節)と言われます。
しかし世界の現実、ロシアのウクライナ侵攻、
イスラエルとハマスの戦争があり、多くの子ども
たちも命を落としており、世界中で心を痛めてい
ます。私たちの住む東アジアでも台湾と中国の衝
突が懸念され、岸田政権は防衛費倍増、敵基地反
撃能力の保有を訴え、憲法九条は無視されていま
す。私たちイエス様の弟子は、この現実負けず、
伝道と共にアジアと世界の平和のために祈り、働
きたいのです。

真の平和こそ神様の願いであると、諸聖句から
確認したいと思います。「敵を愛し、自分を迫害
する者のために祈りなさい」(マタイ 5 章 44 節)。
これを全員が実行すれば、世界中は 1 秒で平和に
なります。簡単ではありませんが、実行するよう
心掛けたいのです。「剣をさやに納めなさい。剣
を取る者は皆、剣で滅びる」(マタイ 26 章 52 節)。
案外日本の政治家も、私たちの身近な人々も知ら
ない聖句かもしれません。身近な人々にお伝えし
ましょう。

「こうしてキリストは、双方を御自分において
一人の新しい人に作り上げて平和を実現し、十字
架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、
十字架によって敵意を滅ぼされました」(エフェ
ソ 2 章 15~16 節)。イエス様の十字架と復活こ
そ神様と私たちとの平和、人間同士(国同士)の
平和の原点です。私の恩師の恩師は、受難週には
首から釘をぶら下げて祈り、生活されたそうです。
十字架の愛の尊さを実感しようとされたのです。
この聖句は、ユダヤ人と異邦人の和解を述べてい

ます。私の知人で韓国の近代史を専門とされる方
は、これを日本人と韓国人の和解に当てはめて読
みました。それも意義深いと思います。イエス様
の十字架により、イスラエルとパレスチナの和解
も実現するように、執り成しの祈りを献げたいの
です。

「知恵は武器にまさる」(コヘレトの言葉 9 章
18 節)。気に留めていなかった聖句ですが、知人
の宣教師に教えられ、すばらしい聖句を見落とし
ていたと気づきました。交わりの中で聖書を読む
ことは大切ですね。武器で戦えば恨みが残り、次
の戦争の種を蒔くだけです。戦争に訴えることは
安易で、真の解決になりません。神様から知恵を
いただき、忍耐強く話し合いで解決することこそ、
最も尊いことです。私たちの真の敵は人間ではな
く、悪魔です。「馬は勝利をもたらすものとはな
らず。兵の数によって救われるのでもない」(詩
編 33 編 17 節)。「肥えた牛を食べて憎み合うよ
りは、青菜の食事で愛し合う方がよい」(箴言 15
章 17 節)。「武力によらず、権力によらず、ただ
わが霊によって、と万軍の主は言われる」(ゼカ
リヤ書 4 章 6 節)。これらの聖句は、私たちに改
めて平和の大切さを教えます。

次の聖句は、クリスマスに読まれます。「血を
踏み鳴らした兵士の靴／血にまみれた軍服はこ
とごとく／火に投げ込まれ、焼き尽くされた」(イ
ザヤ書 9 章 4 節)。神様が戦乱の地を早くこうし
て下さるように祈ります。「ひとりのみどりごが
わたしたちのために生まれた。～権威が彼の肩に
ある。その名は、『驚くべき指導者、力ある神／
永遠の父、平和の君』と唱えられる。ダビデの王
座とその王国に権威は増し、平和は絶えることが
ない」(同 9 章 5~6 節)。先日初めて「首相官
邸前でゴスペルを歌う会」(キリスト者平和ネッ
ト主催)に参加しました。2012 年に始まった沖
縄の「普天間基地ゲート前でゴスペルを歌う会」
に連動しています。「武力で平和はつくりえない」
の幕があり、「もろびとこそぞりて」、「勝利をの
ぞみ(We Shall Overcome)」を歌いました。
基地のない沖縄になり、アジアと世界が平和にな
るようにとの祈りを、神様が実現して下さるこ
とを願って。

第 15 回函館栄光キリスト教会ミニ・アシュラム

函館栄光キリスト教会 信徒 息才秀夫

10月9日に、コロナも第5類になったことで、4年ぶりに助言者をお迎えし、他教会の方々にも声をかけ開催することができました。参加者は助言者の島先生と静江夫人、他教会から7名、当教会から17名、計26名。主題は「聖霊の賜物」(Iコリント12-14章)。朝9:30、開心の時に始まり、午後4:30、充満の時が終了するまで、御言葉に示され、「聖霊の賜物」の豊かなアシュラムでした。今回で15回となり、他教会の方々も、アシュラムは教派も肩書もなく、「イエスは主である」と信じる兄弟姉妹の交わりと分かっているからだったので、進行も順調でした。私の一番好きな祈りの細胞は、5グループに分かれて行いましたが、自分のニードを話し、他者のニードを書き留めて、自分の右の方のニードを覚えて祈り、自分の祈りを加えて祈りました。いろいろな人の悲しみ、苦しみ、恵まれたこと、希望をかけることなど、数多くのニードをお聞きして神様への執り成しの祈り、感謝の祈りを合わせるこの時間はアシュラムでしか得られません。Iコリント13章7節に、神の愛は「すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」とあります。いままでの生活で何度も何度も罪を犯してきた者を忍耐された神。何の価値もない者に「大丈夫だ」と言われ受け入れて下さる神。希望を持たせて下さる神。私のような罪人に光を与えて、希望を与えて下さる神。その大きな愛をわからせて下さるのは主イエス・キリストだけです。これからも「イエスは主なり」の言葉を大事にすごしたいです。



関西アシュラム 関西アシュラム事務局

2023年10月9日(月・祝)午前10時から午後5時まで、大阪クリスチャンセンターで、第56回関西アシュラムが開催された。参加は8教会、13名(信徒7名、教職6名。男性8名、女性5名)であった。主題は「パウロの信仰の大転換」と「パウロの同労者にまで成長したマルコ」、主題聖句はそれぞれ、(使徒の働き9章1~22節)、(使徒の働き15章36~41節)ピレモンへの手紙24節 IIテモ

テへの手紙4章11節)である。開会礼拝・挨拶は清水潔師が担当。続いて先に召された故脇田眞一師の追悼の会が開かれた。メイン講師の岡山敦彦師の講演が、お昼をはさんで、「パウロの信仰の大転換」、「パウロの同労者にまで成長したマルコ」と、パウロポイントを用いて行われた。静聴の時は谷口和師が担当。充満の時は深谷与那人師が担当した。閉会礼拝は清水潔師が担当した。爽り多い会になったことを神様に感謝しています。



神の愛のみことばに支えられて

連盟理事 脇田眞一師夫人 脇田智恵子

主人は62歳のとき大手術を受け、遺言まで書いていました。5年のいのちと言われていましたが、何回も奇跡のような主の守りの中、75歳のときの免疫治療によってさらに12年もの間、皆様の温かなまなざしとお祈りで主が豊かに守ってくださり、88歳の生涯を終えました。

神は愛なり、善意であり、全能の神。その主のみことばを貫き、心のうちに霊の光、イエス様を取り入れ、聖書のみことばの偉大さを脳裏に刻んで、いつも目に見えない主のみことばを深く信じ貫いていました。昨年のクリスマスでは家庭集会に集まっているある奥さまの70年来の祈りであったご主人を受洗へと導き「希望に燃えた祈りは真剣に、深く、主はかなえてくださる」と話していました。

大阪で開かれる朝禱会にも、ケズィック・コンベンション、さまざまな集まりに欠かさず参加し、さらに田舎での記念会、実姉に会いに三重までも行き、最期までパソコンを持ち込んで仕事に打ち込んでいました。「患難と忍耐、練達、希望。希望は絶望に終わることがない。恐れるな、主は共に生きて働く。死は恐れることがない。平安そのものだ」と口癖のように、主がゲッセマネで祈られたようにいつも祈っていました。

アシュラムの祝福 東京新生教会アシュラム

日本基督教団 東京新生教会 信徒 篠原照美

9月9日(土)の連鎖祈禱から始まり10日(日)12時30分まで、第27回目のアシュラムを持ちました。2週にわたって事前の横山義孝師によるガイダンスがあり、祈りの時を意識してアシュラムの生活が始まりました。

当日「開心の時」に一人一人がニードを分かち合い、初めて参加された方も含めて、真実な思いが語られました。そして「静聴の時」は佐々木牧師によって導かれ、詩編121編のみ言葉に耳を傾け、導かれたこと等を話し合いました。

私はニードとして、テキストの「ヨハネ15:12互いに愛し合いなさい」を与えられました。私たち夫婦は互いに年を取り弱さを感じる事が多く、その中でも詩編のみことばを通し、また、互いに愛することを教えられ感謝でした。

「礼拝メッセージ」を横山牧師がして下さり「イエスは主である」と、主から頂いた祝福をしっかりと自分のものとする、神様のみ心、栄光の恵みをもって生きようと力強くメッセージをして下さいました。

「グループの祈り」ではそれぞれが抱えている課題や信仰の状態を分かち合い、祈り心をもってお話を聞きつつ、信仰の友として互いを思いやり、新しい希望を抱きつつ前進する力を与えられる時となり、日常の忙しさや、思い煩いの中に、漠然と暮らしている自分がありますが、アシュラムを通してこのような自分に向き合わされ、自分の信仰は一体どうなっているのか、霊的状态はどうなのかと問われたひと時となりました。

「充満の時」は一人一人に神様が祝福をもって臨んでくださったことを感じました。聖霊が豊かに導いてくださったアシュラムとなりました。



第58回関東アシュラム

単立 下妻シャローム教会 牧師 山本悦子

2023年9月18~20日(月~水)、千葉県市川市にあるヤマザキクリエイションセンターで行われ、30名の参加者が与えられました。

驚くことに、12名もの初参加者がありました。

「イエスは主である」を主題とし、島隆三師がアシュラムの原点を説かれ、アシュラムがキリスト者にとって大切なことを再認識しました。

このアシュラムに毎年北海道から参加されておられる医師のお証しに頭が下がりました。病院を3日間休むということは大変なことで、1か月前から準備に準備を重ねて参加をされておられる姿に感動しました。1年365日の中で、この3日間を聖別するために、参加者はそれぞれ十分に備えることの大切さを思います。

開会礼拝、オリエンテーション、開心の時、祈りの細胞、連鎖祈禱、静聴の時と進みました。賛美と証しの時間には、5グループより1名ずつの証し者が立てられ、その祈りに心を合わせ、充満の時の最後には「イエスは主なり」と一同主を褒め称えました。この聖別されたアシュラムは私たちキリスト者にとってどれほど重要であるか、日々の働きからいったん離れ、心を開いて御言葉に聞き、聖霊の導きの中で信仰を確かなものとさせていただきました。

次回は、コロナ禍前まで毎年会場として使わせていただいた箱根山荘で開催できればと願いつつ、皆さんと集まって、恵みを分かち合えることを楽しみにしています。



アシュラム予告

- 第55回城北アシュラム
日時・2月12日(月祝)
- 場所・山崎製パン総合クリエイションセンター
- 第2回戸畑アシュラム
日時・4月29日(月祝)
- 九州アシュラム
日時・9月15~16日(日~月祝)
- 助言者・深谷与那人師
- 第59回関東アシュラム
日時・9月16~18日(月祝~水)
- 函館栄光キリスト教会ミニアシュラム
日時・10月14日(月祝)
- そのほか、関西アシュラム・東京新生教会・横浜岡村教会・仙台青葉荘教会・西川口教会・浦和別所教会などで予定されています。

献金のお勧め

新年にあたりアシュラムへの献身として、この運動のためにお献ぎいただけないでしょうか。様々な物価上昇のなか大変恐縮ですが、アシュラム誌印刷代、送付費用、事務費、理事会費等に用いさせていただきます。幸いです。お祈りください。

編集後記

昨年は夏から突然冬になったような感覚でした。九州アシュラムは例年9月に行っており、稲穂の実る田んぼとあぜ道には彼岸花が美しく咲いていたのを思い出します。コロナの関係で4年間中止していますので、今年こそはと主に期待しています。各地のアシュラムは一堂に集まり、恵まれた集会を持っておられるので、うれしく感謝しています。各アシュラムの情報を結び合わせる「日本アシュラム」も4回発行することができ感謝です。